

令和8年度

城東小学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

豊かな心を育成し、自ら学び、共にたくましく生きる子どもの育成

校長

榎本 孝裕

学力向上推進員

富崎 美幸

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基本的な知識・技能が身に付いている児童が多い。 ●学力の個人差があり、学習の積み重ねが不十分な児童がいる。 ●知識として得た語彙を使いこなす力が十分ではない。	・どの児童も基本的な知識・技能が身に付いている。 ・知識として得た語彙を自分のものとして活用することができる。	・反復学習や繰り返しの復習を取り入れ、スモールステップで練習を重ねる。聴写や視写の活動も取り入れ、定着を図る。 ・実物に触れる機会を増やし、体験したことを言語化する。また、学習した語彙を使って説明する活動を取り入れる。 ・学習したことをまとめる機会を増やし、授業で学んだ内容を日常生活と関連付けて活用できるようにする。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを伝えたり、多様な意見を認めたりできる児童が比較的多い。 ●自分の考えを正確に効果的に伝えることが十分ではない。	・課題に対して、既習事項や資料をもとに、自分なりの考えを整理することができる。 ・自分や他者の考えを踏まえて、よりよい結論を導くことができる。 ・相手や目的に応じて、自分の考えを正確に表現し、伝えることができる。	・子どもが考える時間を確保し、課題に対して根拠をもとに自分の考えを話したり書いたり説明したりする活動を充実させる。発言の機会を多く設ける。 ・ペアやグループでの意見交換を積極的に取り入れ、友達の発言に対して考えを返す活動や、学級の課題について話し合う時間を設ける。 ・めあてを明確にし、考えの整理方法や書き方の視点を提示する。また、掲示物やICTを活用して学習内容や他者の考えを視覚化し、振り返りや理解を深める。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に対して、真面目に学習に取り組む児童が多い。 ●自分なりの方法で課題を解決したり、学び方を自己調整したりできる児童は多くない。	・学習の見通しをもち、自ら課題に取り組むことができる。 ・学習の振り返りを通して、学び方を調整しながら、改善しようとしている。	・授業内容を黒板に整理して示し、1時間の予定やゴールがわかるように視覚的に支援する。 ・導入を工夫し、児童が問いや興味をもてるようにすることで、自ら調べたり考えたりする意欲を高める。 ・児童の実態や必要性に応じた個人課題や教材を工夫し、毎時間の振り返りを通して学習内容の定着を図る。			